

令和6年度一般廃棄物最終処分場の汚水処理施設における水質検査結果

番号	採水年月日	天候	原水					排水						
			pH	BOD	COD	SS	大腸菌群数	全窒素	pH	BOD	COD	SS	大腸菌群数	全窒素
				(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(個/cm ³)	(mg/l)		(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(個/cm ³)	(mg/l)
1	令和6年4月23日	曇	6.9	2.6	4.9	15	3	26	7.7	2.3	4.5	2	0	29
2	令和6年5月17日	晴	7.1	2.4	4.8	20	14	24	7.7	2.8	4.3	2	0	27
3	令和6年6月6日	曇	7.2	2.5	4.9	17	4	24	7.8	2.8	4.5	0	0	28
4	令和6年7月3日	曇	7.0	2.5	5.3	25	4	25	7.5	1.8	4.9	4	0	26
5	令和6年8月1日	晴	7.2	2.6	5.6	23	14	36	7.7	1.8	5.0	2	0	34
6	令和6年9月5日	晴	7.1	2.4	4.8	16	10	27	7.6	2.3	5.0	2	0	33
7	令和6年10月7日	曇	6.8	3.7	5.3	11	8	29	7.6	2.7	4.7	1	0	32
8	令和6年11月5日	晴	6.9	2.1	5.3	19	10	27	7.7	1.6	4.3	0	0	30
9	令和6年12月3日	晴	7.1	2.7	4.9	16	6	29	7.9	1.8	4.7	9	0	33
10	令和7年1月9日	曇	7.1	2.2	5.7	13	15	39	7.7	1.0	4.5	0	0	38
11	令和7年2月3日	曇	7.0	2.2	4.9	11	25	32	7.6	1.6	4.7	0	0	34
12	令和7年3月5日	曇	7.2	2.9	5.1	13	0	34	8.0	2.2	4.5	0	0	38
年間平均値			7.1	2.6	5.1	17	9	29	7.7	2.1	4.6	1.8	0.0	32
省令に基づく排出基準									5.8 ~8.6	60以下	90以下	60以下	日間 平均 3,000 以下	日間 平均 60以下 最大120以下

【用語解説】

- [pH] 水溶液の酸性、アルカリ性の度合いを表す指標であり、pHが7のときに中性、7を超えるとアルカリ性、7未満では酸性を示す。
- [BOD] 生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)の略語で、河川における水質汚濁の代表的な指標である。その値は、水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量で表され、値が大きいほど水が汚れていることになる。
- [COD] 化学的酸素要求量(chemical Oxygen Demand)の略語で、湖沼や海域における水質汚濁の代表的な指標である。その値は、水中の有機物が酸化剤により化学的に分解されるときに消費される酸素の量で表され、値が大きいほど水が汚れていることになる。
- [SS] 水に溶けない懸濁性の物質のことである。水の濁りの原因となるもので、日光の透過を妨げることによって水生植物の光合成作用を妨害するなどの有害作用がある。
- [大腸菌群数] 大腸菌群数とは、大腸菌群を数で表したもので、検水100mL中の大腸菌群の最確数(Most Probable Number, 略してMPN)で表される。大腸菌群とは、大腸菌及び大腸菌とよく似た性質を持つ菌の総称である。この中には腸内細菌以外の細菌も含まれている。大腸菌は、普通、非病原性であるが、ときに集団食中毒を引き起こし社会問題となったO-157等のような病原性のものもある。大腸菌群数の試験は、結果が陽性である水は、し尿の汚染を受けた可能性があり、もし、し尿の汚染を受けたとすれば、その水の中には赤痢菌やチフス菌等の病原微生物が存在する可能性をもつとの判断をするために行うものである。従って、大腸菌群数試験は、衛生管理の一手段として行うもので、大腸菌群数そのものが直ちに衛生上有害というものでない。大腸菌群は、一般に人畜の腸管内に常時生息し、健康な人間の糞便1g中に10～100億存在するといわれている。
- [全窒素] 窒素は蛋白質などの有機物も多く含まれ、植物プランクトンの栄養源となるため、湖沼や海域の汚染(富栄養化)の原因となる。環境基準に定められている全窒素は、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素及び有機性窒素の窒素化合物の総量を指す。自然界の有機性窒素は、通常、生物の作用を受けてアンモニアに変化し、次いで亜硝酸になり、最後に硝酸に変化する。河川等への窒素化合物の供給源には、山林、田畑からの流入、畜産排水、生活排水及び工場排水等がある。